

参考資料

2014年度第3四半期 業績の概要

2015年2月13日
ソニー銀行株式会社

損益の状況(1):財務会計ベース

< 連結・単体 >

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(億円)

< 連結 >

● 連結業務粗利益

前年同期比3億円増加の183億円。
市場金利低下により資金運用収支は減少したものの、債券売却および外貨関連取引に係る収益の増加により、その他業務収支が増加。

● 連結経常利益

為替相場の変動で9月以降、外貨関連取引に係る収益が改善したことに加え、子会社業績の改善もあり増益に転じ、53億円。

● 連結四半期純利益

クレジットカード事業の承継に伴う特別損失を1億円計上したこともあり、同横ばいの32億円。

< 単体 >

● 業務粗利益

連結同様の要因により、同1億円増加の166億円。

● 経常利益

営業経費の増加もあり、同1億円減少の52億円。

● 四半期純利益

前述の特別損失を計上したものの、同横ばいの33億円。

	<9ヶ月累計>	2013年度 3Q	2014年度 3Q	前年同期比	
連結	業務粗利益	180	183	+3	+1.7%
	経常利益	52	53	+0	+0.9%
	四半期純利益	32	32	0	0.4%

単体	業務粗利益	164	166	+1	+1.0%
	資金運用収支	131	125	6	4.7%
	役員取引等収支	2	2	0	-
	その他業務収支	35	43	+8	+23.3%
	営業経費	109	114	+4	+4.4%
	業務純益	55	53	2	4.9%
	経常利益	54	52	1	2.5%
	四半期純利益	33	33	0	2.3%

当期より、有価証券の金利リスクヘッジに係るコストの計上科目を変更しました。
そのため、前年同期につきましても、当期と同様に計上した場合の金額を記載しています。

損益の状況(2) : 社内管理ベース

< 単体 >

- コアベース業務粗利益は前年同期比2億円減少の141億円。
資金収支は横ばい。手数料等収支は、為替相場の変動を受けて9月以降活況となっているお客さまの外貨取引が今年度前半においては低調だったことが影響し、減少。
- 資金利鞘は0.92%と一定の水準を確保。

(億円)

< 9ヶ月累計 >	2013年度 3Q	2014年度 3Q	前年同期比	
業務粗利益	163	165	+1	+1.0%
資金収支*1	137	137	0	0.2%
手数料等収支*2	6	4	2	38.7%
その他収支*3	20	24	+4	+22.1%
コアベース業務粗利益(A) = +	143	141	2	2.0%
営業経費等	108	113	+4	+4.1%
コアベース業務純益 = (A) -	35	27	7	20.7%

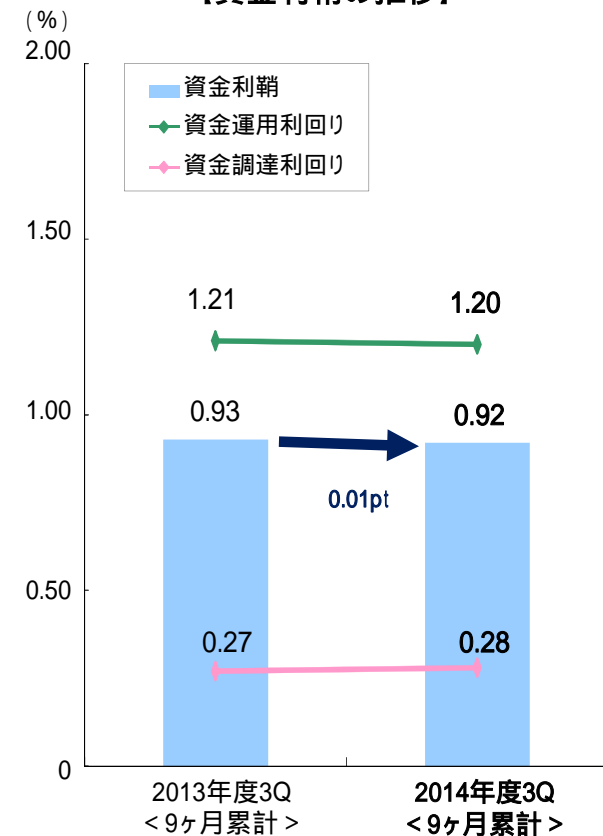
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

社内管理ベース 損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

- *1 資金収支... 資金運用収支 + その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)
- *2 手数料等収支... 役務取引等収支 + その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益
- *3 その他収支... その他業務収支より*1と*2の調整分を控除したものの、主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益

コアベース 社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な収益を表すもの

【資金利鞘の推移】

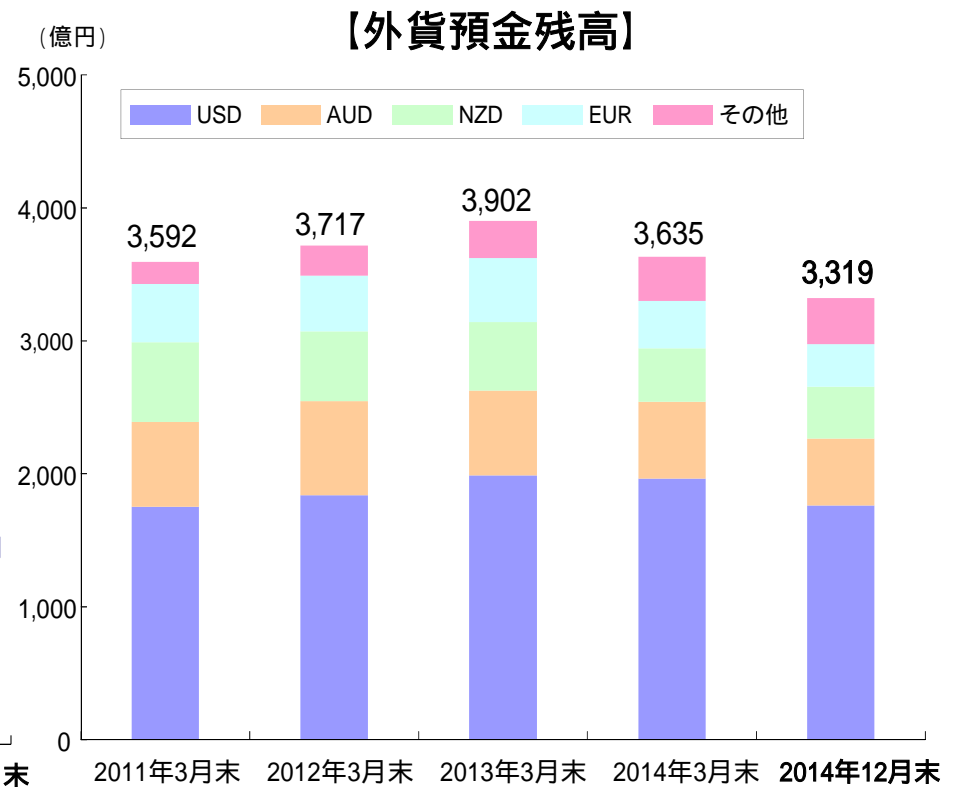
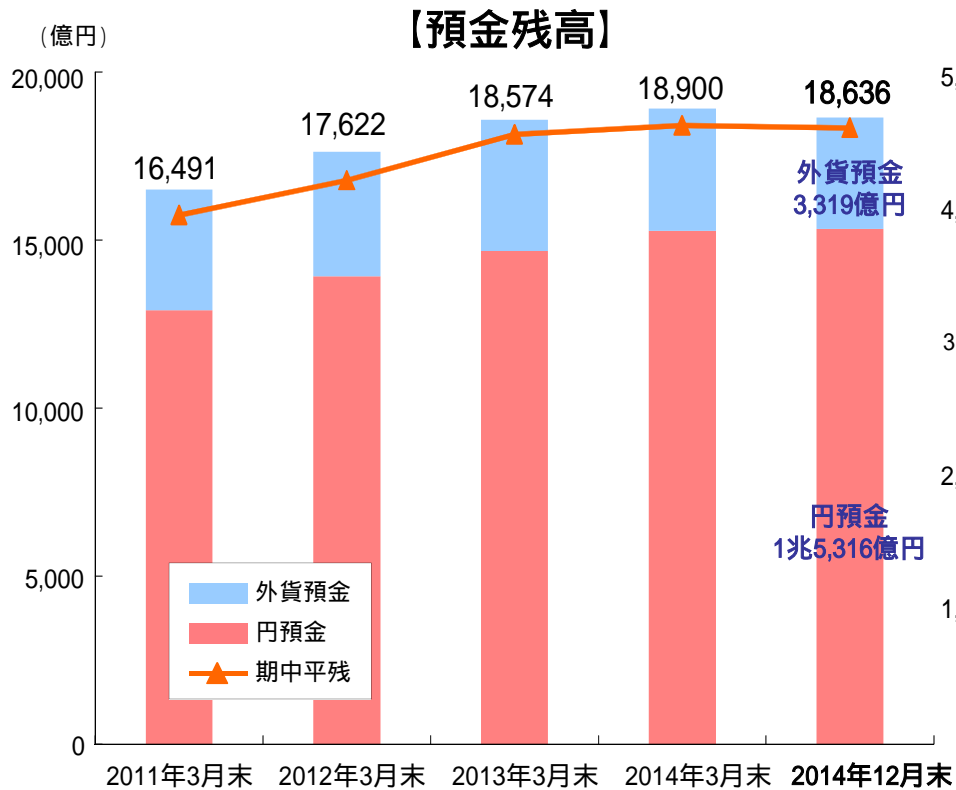


預金の状況

< 単体 >

- 円預金残高は、低金利継続の影響もあり前年度末比横ばいの1兆5,316億円。
- 外貨預金残高は、円安進行に伴う利益確定の売りにより、同315億円減少の3,319億円。
- 2014年12月末の預かり資産残高(預金 + 投資信託)は1兆9,890億円。

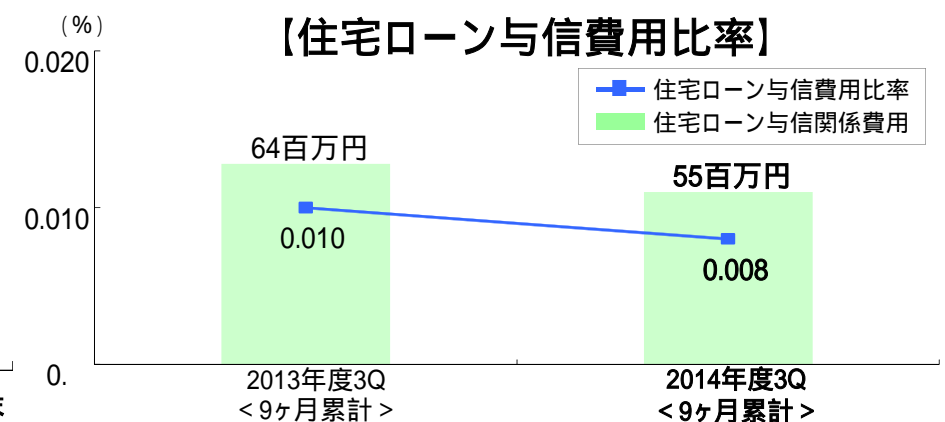
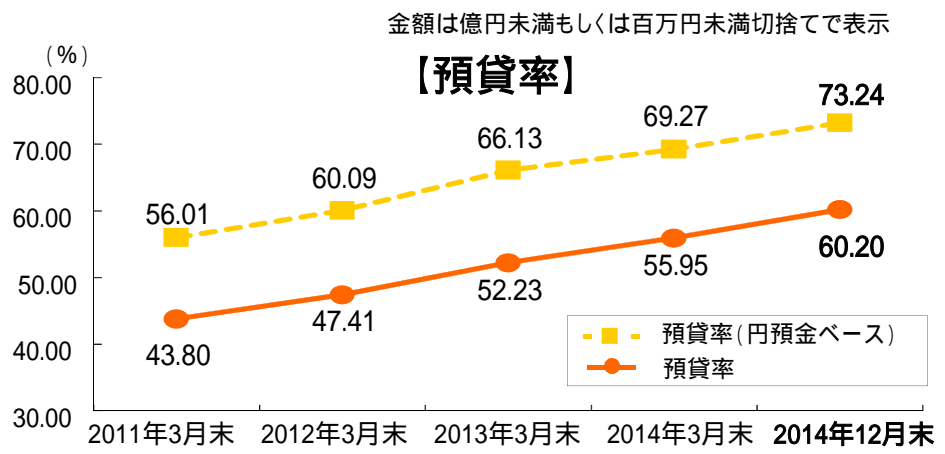
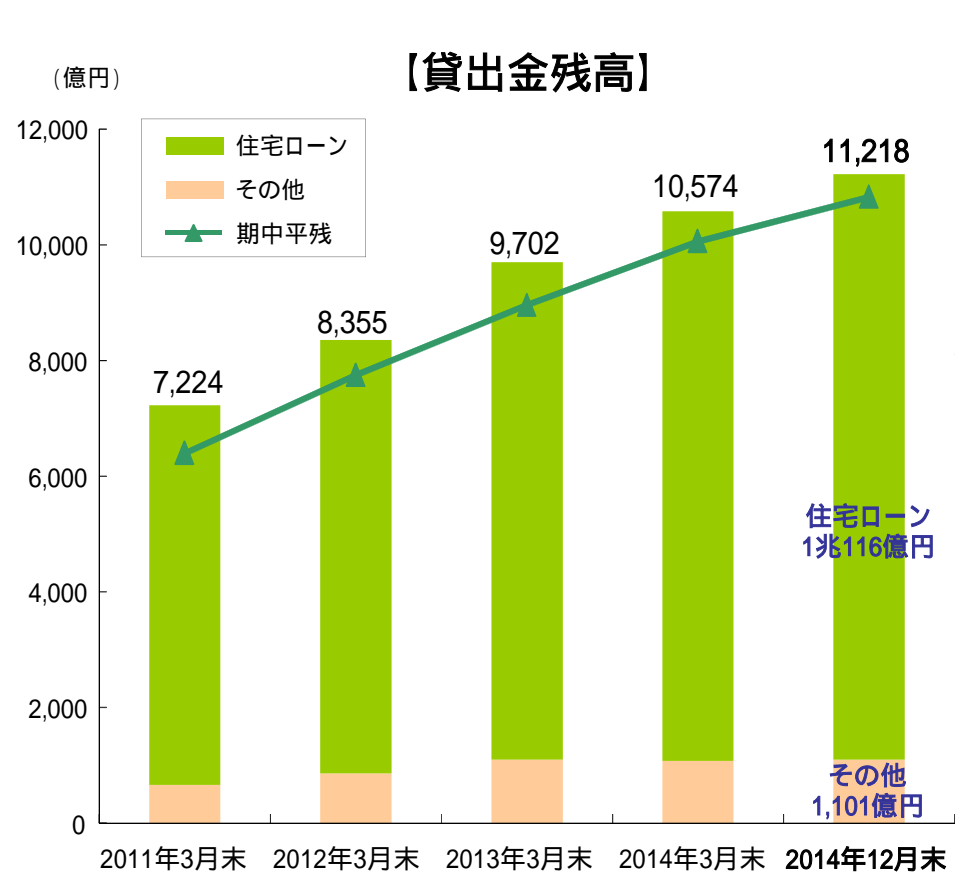
金額は億円未満切捨てで表示



貸出金の状況

< 単体 >

- 貸出金残高は、住宅ローンが1兆円を達成し、前年度末比644億円増加の1兆1,218億円。預貸率は60.20%と着実に向上。
- 住宅ローン与信費用比率は、前年同期に引き続き低水準を維持。



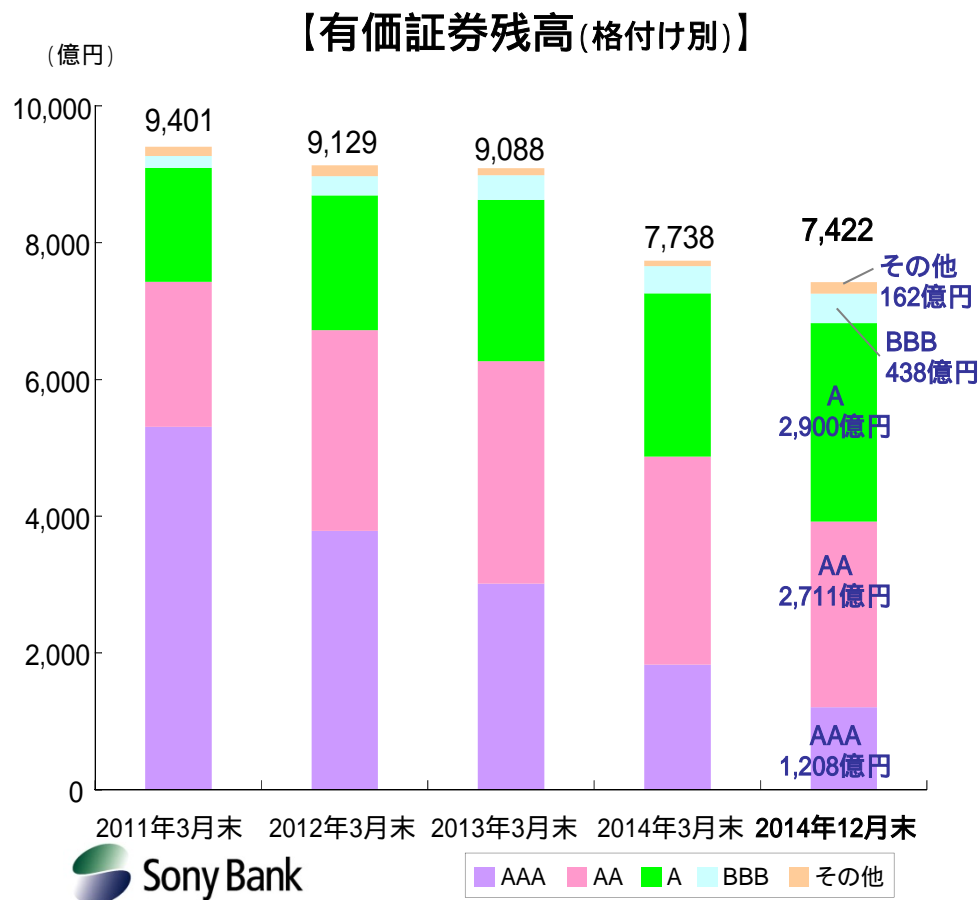
住宅ローン与信費用比率(年率換算) = 住宅ローン与信関係費用 ÷ 住宅ローン平残
 住宅ローン与信関係費用 = 貸出金償却(住宅ローン) + 貸倒引当金繰入額(住宅ローン)

有価証券の状況

< 単体 >

- 有価証券は、高格付けの債券で安定的に運用。引き続き、AAA～A格の債券が全体の9割強を占める。残高は前年度末比316億円減少の7,422億円。
- その他有価証券評価差額金(税効果会計適用前)は93億円。

金額は億円未満切捨てで表示



【その他有価証券の内訳】 (億円)

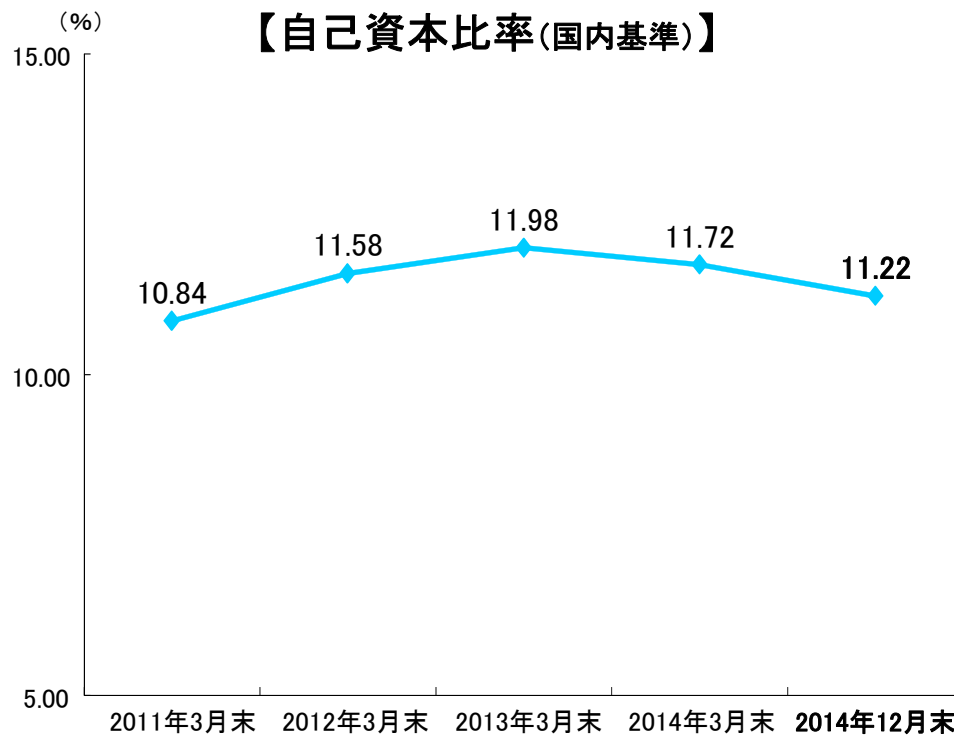
	2014年3月末	2014年12月末
債券	3,047	2,410
国債	888	614
地方債	567	571
社債	1,591	1,224
その他	4,586	4,908
外国債券	4,550	4,866
その他の証券	35	41
合計	7,634	7,318
< その他有価証券評価差額金 (税効果会計適用前) >	< 106 >	< 93 >

時価のあるその他有価証券の貸借対照表計上額内訳。その他有価証券評価差額金(税効果会計適用前)の金額は億円未満四捨五入で表示しています。

自己資本比率・格付け情報

<単体>

- 自己資本比率は11.22%と健全な水準を維持。



【格付け(2014年12月末現在)】

スタンダード&プアーズ	
長期カウンターパーティ格付け「A+」	アウトルック「ネガティブ」
短期カウンターパーティ格付け「A-1」	
日本格付研究所	
長期発行体格付「AA-」 見通し「安定的」	

※平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出。なお、2014年3月末より、バーゼルⅢベースへ移行。